

【証券コード:6728】

# 決算説明会 (2009年6月期)

2009年8月17日

株式会社 アルバック

1

## ◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品の市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## ◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q(累計)：第2四半期連結累計期間

2Q : 第2四半期連結会計期間

注)2010年6月期(予想)よりセグメント及び品目の表現が変更されています。

■ エネルギー・環境関連で世界のトップへ

代表取締役会長 中村久三

■ 業績概要及び予想

▶ 2009年6月期連結業績概要

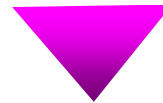
▶ 2010年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

## 世界同時不況の本質

- 今回の大不況  
世界経済の枠組みが大きく変わる過程で発生した  
いわば歴史的なもの
- 同時不況の本質
  1. 世界経済の中心がアメリカから中国に移っていく
  2. 製造業の成長を牽引する分野が電子デバイスやITソフト  
からエネルギー・環境や資源・材料の分野に移っていく
  3. 中国に加えてインド、ロシア、中東などの広大な地域で  
製造業の急成長が開始



これら構造的変化は企業の存立が危ぶまれる危機

5年前から構造変化を予測。「ポストFPD戦略」として新規事業、  
新商品開発への投資を積極的に実施。事業転換に取り組む。

# ポストFPD戦略

## 1. デジタル家電用電子部品製造装置

光学薄膜デバイス、MEMS、LED、高密度実装

## 2. エネルギー・環境関連製造装置

### ▶ ハイブリッド・カー

希土類磁石、二次電池（水素吸蔵合金、Li電池等）

コンデンサー、パワーIC（極薄ウエーハ、SiC等）

### ▶ 太陽電池（結晶系、薄膜系、化合物系等）

## 3. 中国市場（ローテクからハイテクまですべての分野）


コンポーネント、一般産業機器（磁石、熱処理等）、電子機器（LED、パワーデバイス等）、FPD・半導体、太陽電池

## 4. CS（カスタマーサポート）事業とOEM生産

部品洗浄、消耗部品、材料（スパッタリングターゲット、PV材料等）、リサイクル、メンテナンス、光学膜OEM、委託加工

## 「ポストFPD戦略」の成果(1)

### ■ エネルギー・環境分野と材料・資源分野の成果

- ▶ Si薄膜太陽電池で発電効率と発電コストの両方を改善できるタンデム型ターンキー装置を開発し販売を開始
- ▶ テュフラインランド社  TÜVRheinland®  
Precisely Right. と共同で太陽電池評価センターを設置。一貫装置だけでなく材料の認証と販売が可能
- ▶ 昭和シェル殿との間で行っていたCIGS太陽電池製造装置の開発にほぼ成功。今後大きな受注を期待
- ▶ Si結晶太陽電池で各種技術を開発中
- ▶ 薄膜Li電池製造装置の開発に成功

## 「ポストFPD戦略」の成果(2)

### ■ エネルギー・環境分野と材料・資源分野の成果

#### ▶ ハイブリッド・カー関連:

- ◆ 世界最高性能の永久磁石製造装置の開発に成功

- ◆ フィルムコンデンサー製造装置の開発に成功

#### ▶ パワーデバイス用各種装置の開発

#### ▶ SiC用イオン注入装置とアニール装置を開発

#### ▶ 材料・資源分野

- アルバックマテリアル(株)をアルバック内に取り込み、  
装置事業との車の両輪としてシナジー効果

#### ▶ 新材料、リサイクル、精製技術の開発に本格的に取り組む

## 成功のシナリオ

- ターンキーソリューションの今後の展開
  - ▶ 中国やインド、ロシア、中東ではターンキーソリューションを提供できる装置メーカーのみ仕事が可能
  - ▶ Si薄膜太陽電池は一貫装置だけでなく材料、工場の提供も実施

ターンキー商品を開発中

- アルバックの成長の鍵
  - ▶ 世界最高性能を実現できるターンキー商品の開発が今後のアルバックの成長にとって決定的
- 成功のシナリオ
  - ▶ 世界的な経済構造の変化に対し積極的に対応
  - ▶ 独創的な最先端技術の開発に成功できるかどうか重要



- エネルギー・環境関連で世界のトップへ  
代表取締役会長 中村久三

- 業績概要及び予想

- ▶ 2009年6月期連結業績概要

- ▶ 2010年6月期連結業績予想

- ▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

## 09/6期のまとめ(事業環境)

### ■ 期初

- ▶ 太陽電池関連で受注・売上増を期待、FPD関連は多くの受注残
- ▶ 太陽電池とFPD以外は厳しい状況

### ■ 期中

- ▶ 2008年秋からの世界的な設備投資抑制(太陽電池も)
- ▶ 2Q以降での急激な受注落込み
- ▶ FPD関連の納入延期による売上減少  
⇒業績が急速に悪化し見通しを下方修正(2回)

### ■ 緊急対策の実施

- ▶ 固定費削減(経費、人件費、減価償却費、研究開発費など)
- ▶ 役員報酬、給与カット
- ▶ グループ全体で人員シフトを実施

## 09/6期のまとめ(業績)

## ■ 収益面

- ▶ 半導体製造装置の売上高が大幅減少し収益が悪化
- ▶ 液晶製造装置(G8)や太陽電池一貫ラインの収益性改善
- ▶ 為替差損(ウォン安)の影響で経常利益が大幅減

## ■ 財務面

- ▶ 売上高大幅減で、棚卸資産が増加
  - 資金繰り悪化懸念に対し資金確保
- ▶ 借入金依存度、FCFは極度に悪化

## 09/6期業績

【単位:億円】

	07/6期	08/6期	09/6期	
			見通し修正 (2/12)	実績
受注高	2,368 (+0%)	2,931 (+24%)	1,800 (-39%)	1,722 (-41%)
受注残高	1,204	1,710		1,079
売上高	2,392 (+13%)	2,412 (+1%)	2,330 (-3%)	2,238 (-7%)
営業利益	166 (+12%)	91 (-45%)	68 (-25%)	35 (-62%)
営業利益率	6.9%	3.8%	2.9%	1.6%
経常利益	161 (+9%)	51 (-69%)	18 (-65%)	8 (-84%)
経常利益率	6.7%	2.1%	0.8%	0.4%
当期純利益	73 (-10%)	36 (-51%)	1 (-97%)	8 (-78%)

【( )内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

## 品目別売上高の実績(08/6期比較)

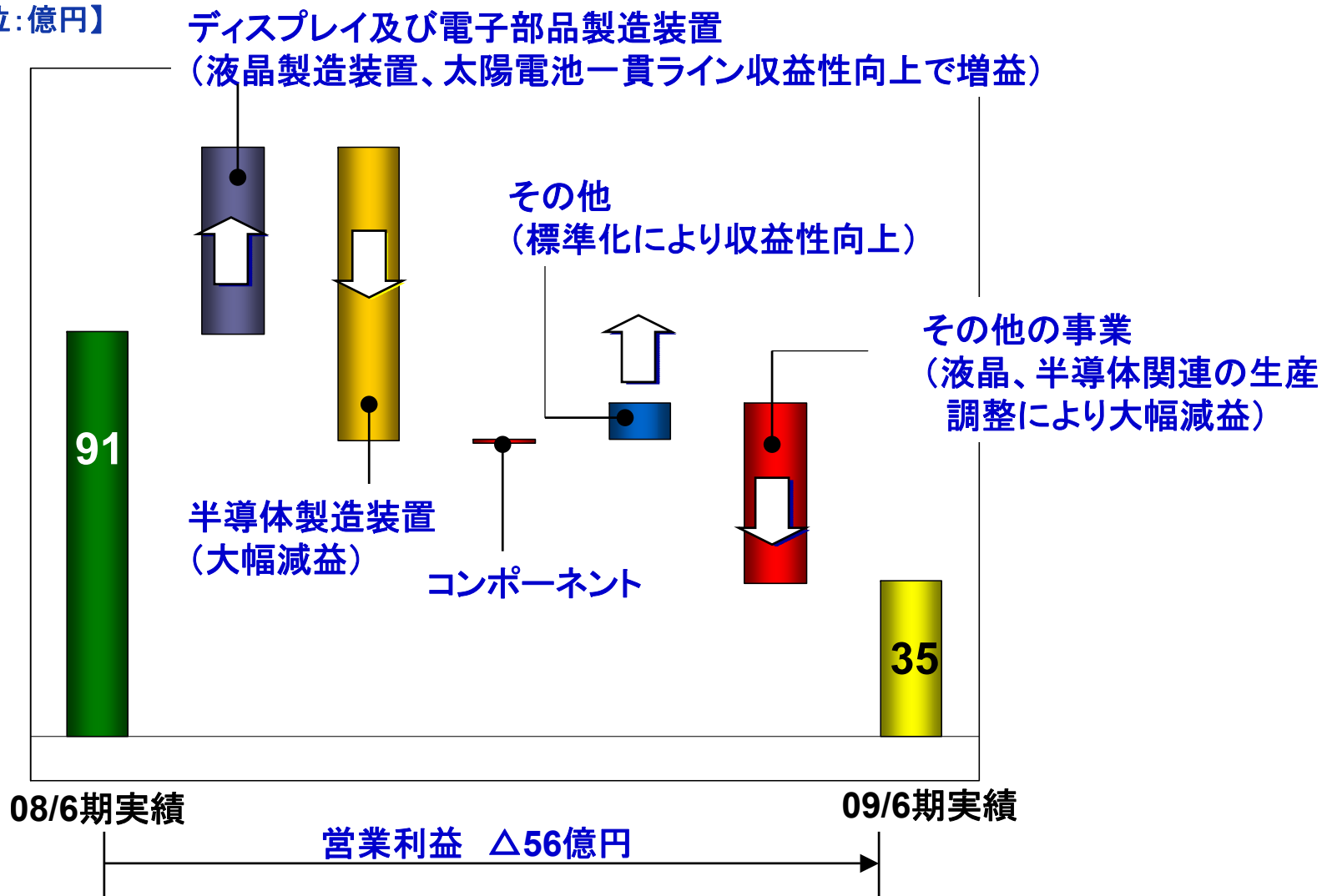
【単位:億円】

品目	08/6期	09/6期			
		実績	差異	主な変動要因	
真空関連事業	ディスプレイ及び電子部品製造装置	1,272	1,284	12	液晶関連は納入延期で減少。薄膜太陽電池一貫ラインが増加。
	半導体製造装置	320	142	-178	DRAM、フラッシュメモリ関連の設備投資延期・凍結で大幅減
	コンポーネント	230	213	-17	FPD、半導体製造装置の減少でポンプ、計測器減少。太陽電池関連も減少。
	その他	182	145	-37	自動車関連の熱処理炉や真空蒸着装置が減少。
その他の事業	408	455	47	委託成膜加工ビジネス新規連結	
合計	2,412	2,238	-173		

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

# 営業利益増減分析(08/6期比較)

【単位:億円】



## 連結貸借対照表(資産の部)

【単位:億円】

	08/6期	09/6期	増 減
流動資産	1,866	1,993	127
固定資産	1,165	1,188	23
有形固定資産	938	965	27
無形固定資産	38	38	△ 0
投資その他の資産	189	184	△ 5
資産合計	3,031	3,181	150

### 資産の部: 150億円増

流動資産: 127億円増

◆現金、預金

54億円増

◆たな卸資産

45億円増

固定資産: 23億円増

◆有形固定資産

27億円増

(茅ヶ崎工場リニューアルⅡ期工事、和歌山洗浄工場建設、千葉超材料研究所新築工事、新規連結など)

◆投資有価証券

28億円減(新規連結による減少)

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

## 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位:億円】

	08/6期	09/6期	増 減
(負債の部)			
流動負債	1,508	1,518	10
固定負債	604	762	157
負債合計	2,112	2,279	167
(純資産の部)			
純資産合計	919	902	△ 17
負債純資産合計	3,031	3,181	150

### 負債の部 : 167 億円増

- ◆短期借入金・長期借入金 504億円増(運転資金増加による)
- ◆支払手形及び買掛金 251億円減(受注減少による)
- ◆前受金 118億円減(受注減少による)

### 純資産の部: 17 億円減

- ◆当期純利益 8億円計上
- ◆評価・換算差額等 44億円減(韓国、台湾連結子会社の為替影響)
- ◆配当金 9億円支払い

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】



■ エネルギー・環境関連で世界のトップへ

代表取締役会長 中村久三

■ 業績概要及び予想

▶ 2009年6月期連結業績概要

▶ **2010年6月期連結業績予想**

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

## 事業環境

### ■ ポジティブ要因

#### ▶ エネルギー・デバイスの成長が始まる

- ◆ 太陽電池:国内メーカーの本格的な投資開始
- ◆ ハイブリッド・カー:販売好調で部品メーカーで投資の兆し
- ◆ 二次電池:リチウム、NAS電池など市場拡大
- ◆ LED:照明、バックライトなどで市場拡大

#### ▶ 液晶関連で韓国、中国などで投資回復

#### ▶ 中国の内需刺激策が液晶以外にも影響

### ■ ネガティブ要因

#### ▶ 金融危機の影響が継続し、円高が解消されないと予想

#### ▶ 中国、台湾などで太陽電池の投資の回復が鈍い

#### ▶ 半導体、自動車業界など設備投資の凍結・延期が続く

#### ▶ 価格引き下げ圧力が増長



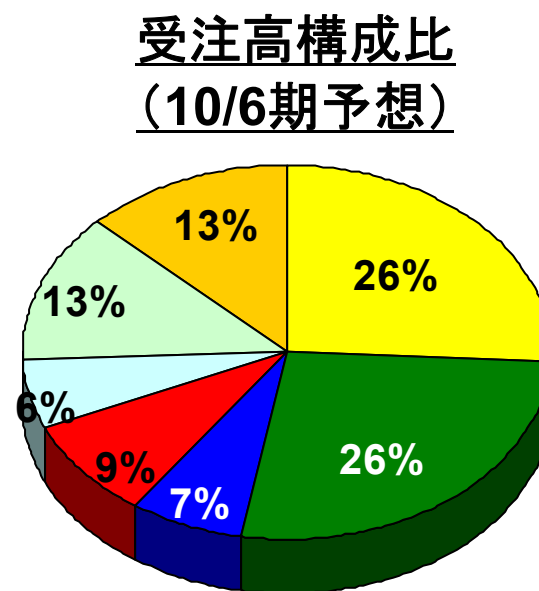
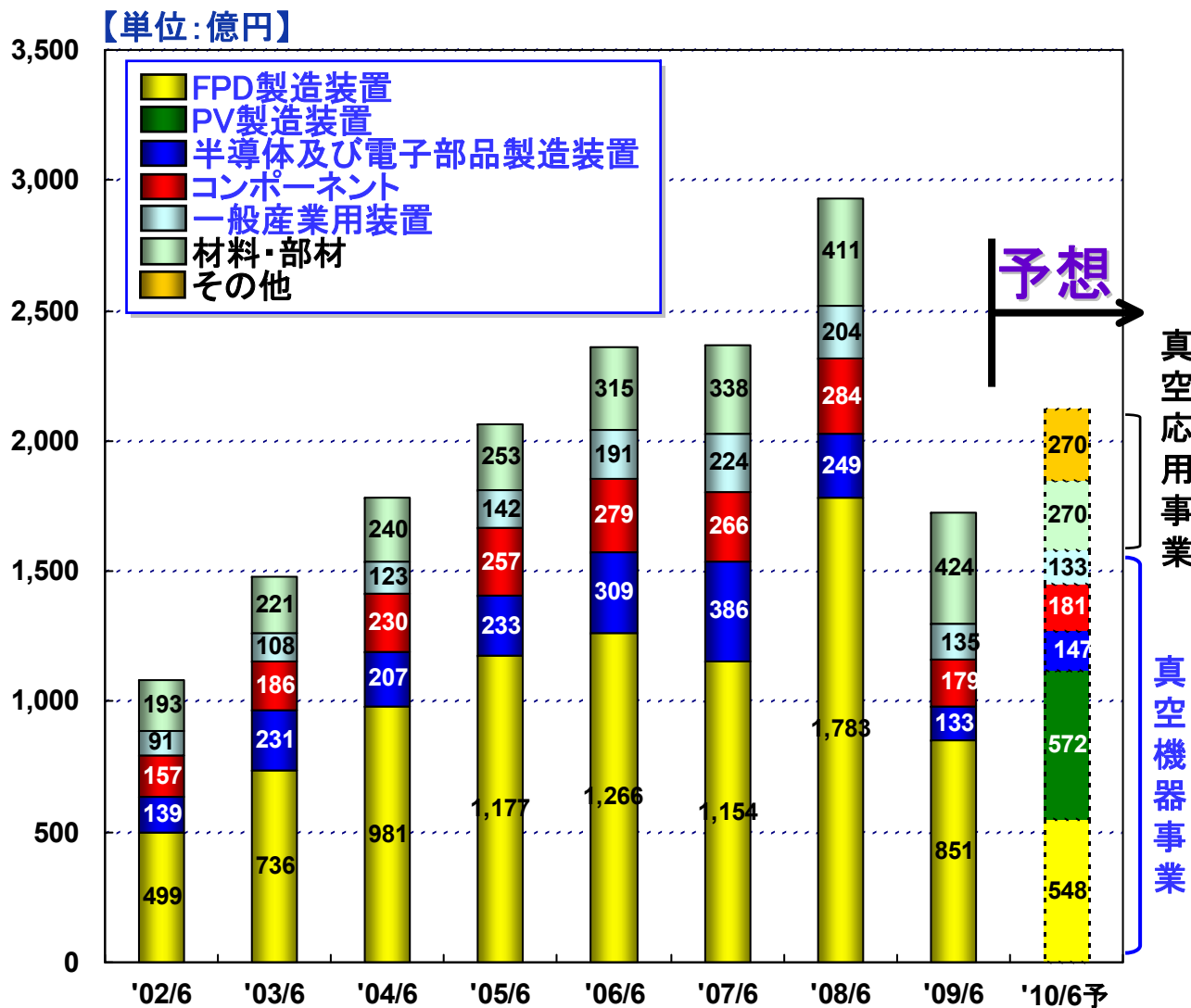
## 2010/6期予想

【単位：億円】

	08/6期	09/6期	2010/6期予	
			2Q(累計)	通期
受注高	2,931 (+24%)	1,722 (-41%)	1,112 (-3%)	2,120 (+23%)
受注残高	1,710	1,079	1,192	799
売上高	2,412 (+1%)	2,238 (-7%)	1,000 (-8%)	2,400 (+7%)
営業利益	91 (-45%)	35 (-62%)	-31 ( — )	56 (+61%)
営業利益率	3.8%	1.6%	-3.1%	2.3%
経常利益	51 (-69%)	8 (-84%)	-42 ( — )	31 (+271%)
経常利益率	2.1%	0.4%	-4.2%	1.3%
当期純利益	36 (-51%)	8 (-78%)	-37 ( — )	11 (+36%)

【( )内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

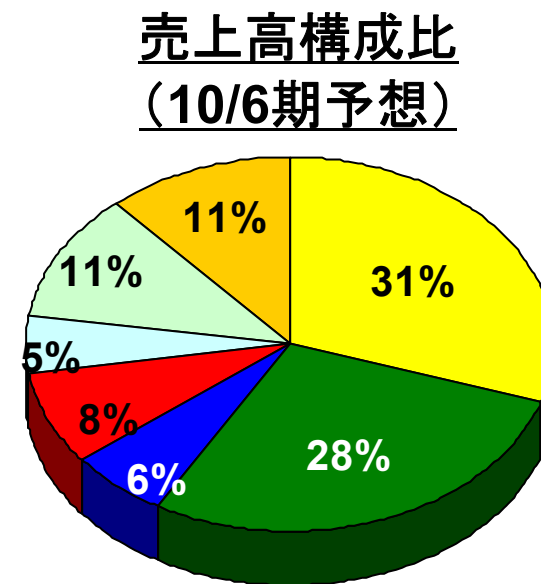
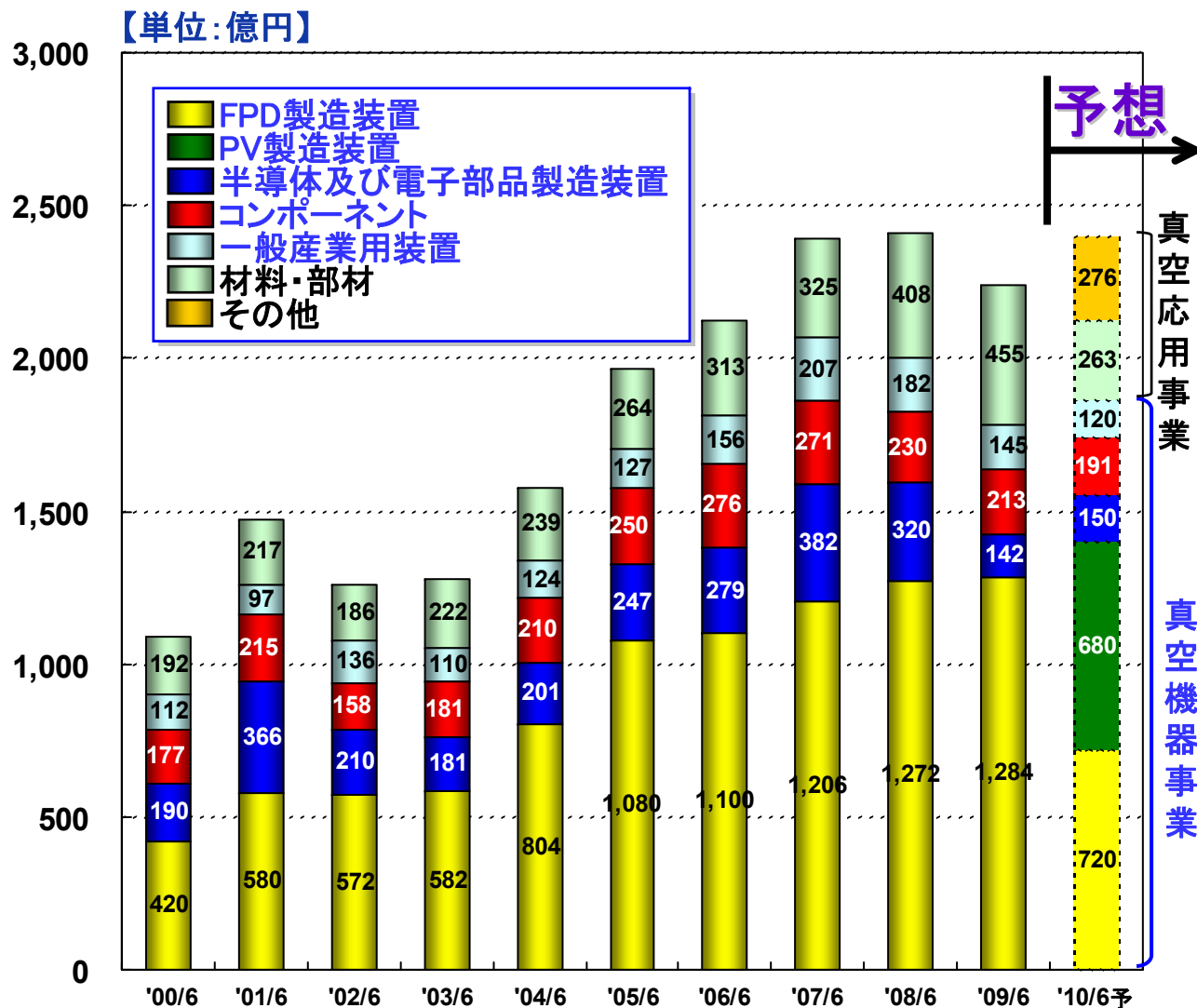
# 品目別受注高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

注) 2010年6月期(予想)よりセグメント及び品目の表現が変更されています。

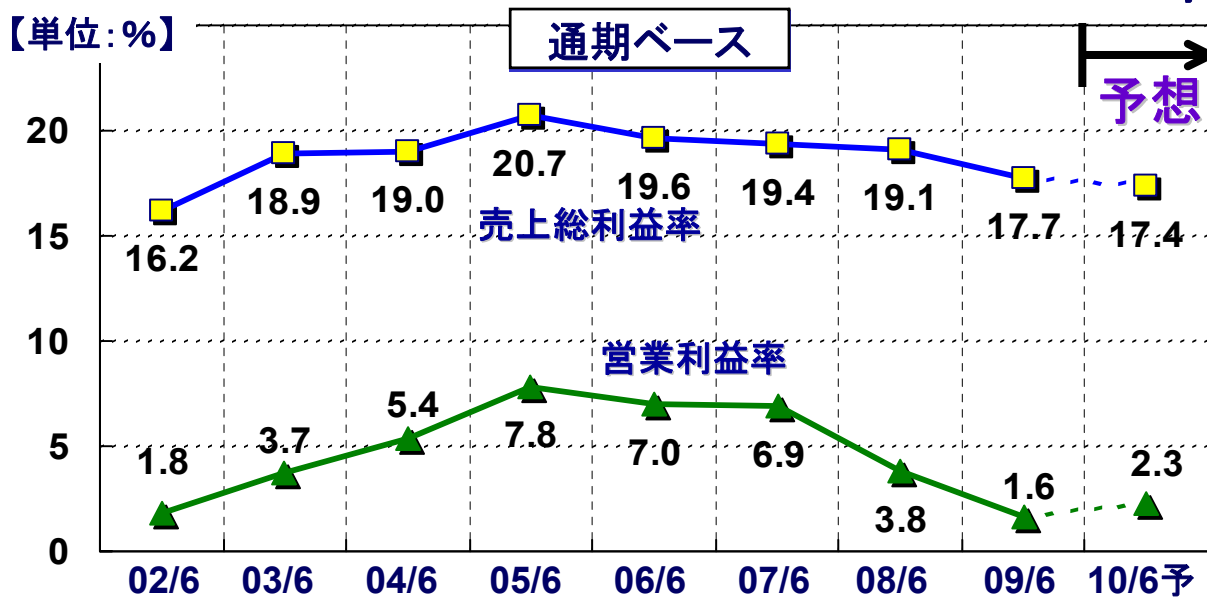
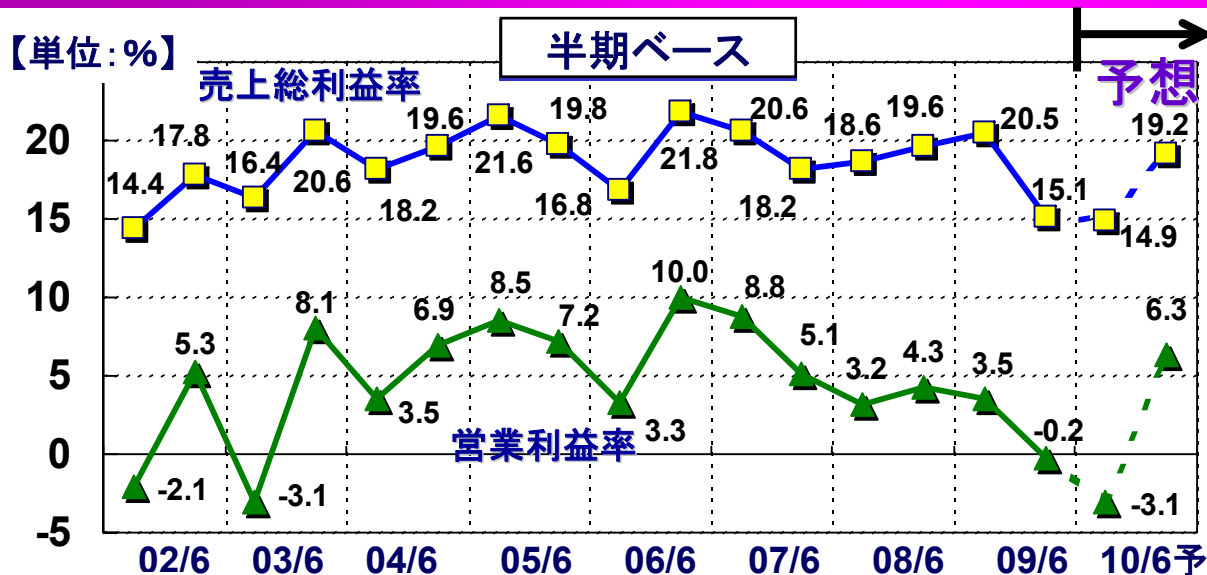
# 品目別売上高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

注) 2010年6月期(予想)よりセグメント及び品目の表現が変更されています。

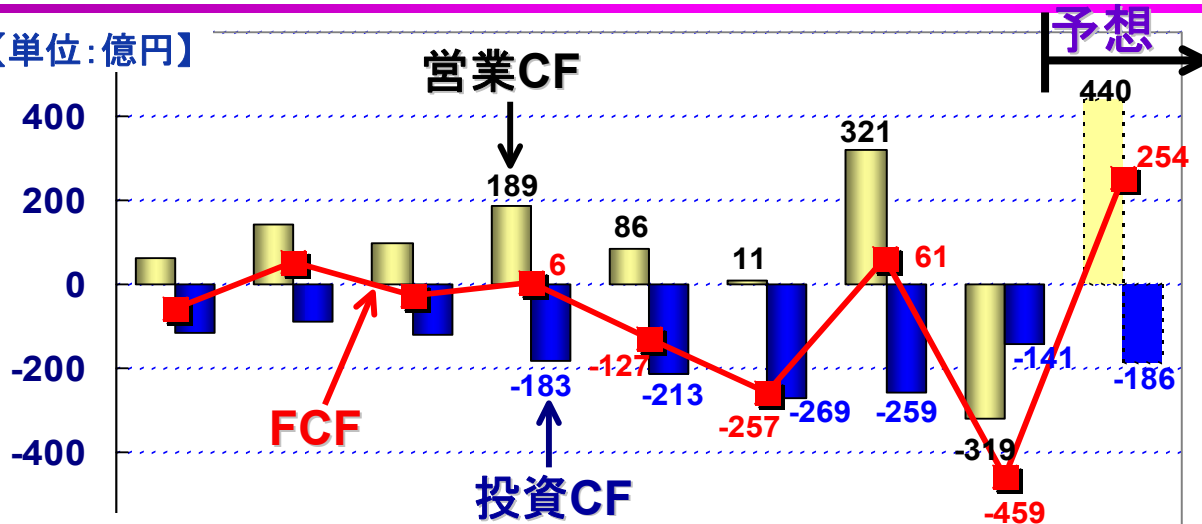
# 利益率の推移・予想



- 2010/6期予想
- ▲ 上期収益悪化要因
- ◆ 前期受注減により1Qは大幅な売上減。利益率低下営業赤字の予想 (液晶、太陽電池、半導体の回復が遅れる)
- ▲ 下期収益改善要因
- ◆ 韓国、中国向け液晶ディスプレイの受注回復。売上増
- ◆ 日本向けPV(太陽電池)関連の受注回復で売上急増
- ▲ 通期
- ◆ 生産改革の推進(内製化、海外生産など)で収益力向上
- ◆ 継続的な固定費のスリム化

# キャッシュ・フローと有利子負債の実績・予想

【単位:億円】

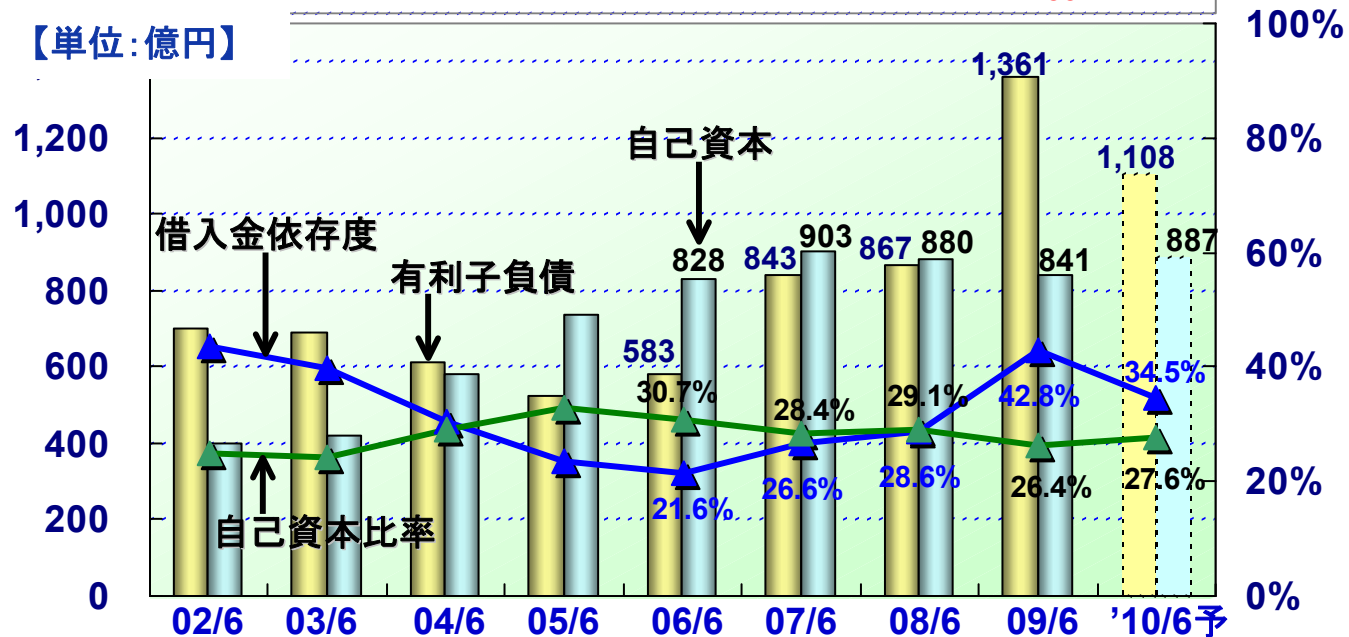


■ **営業CF: 440億円**

・ **資金効率の向上**

- ・ 棚卸資産の圧縮
- ・ 売掛債権の回収促進
- ・ 前受金の確保

【単位:億円】

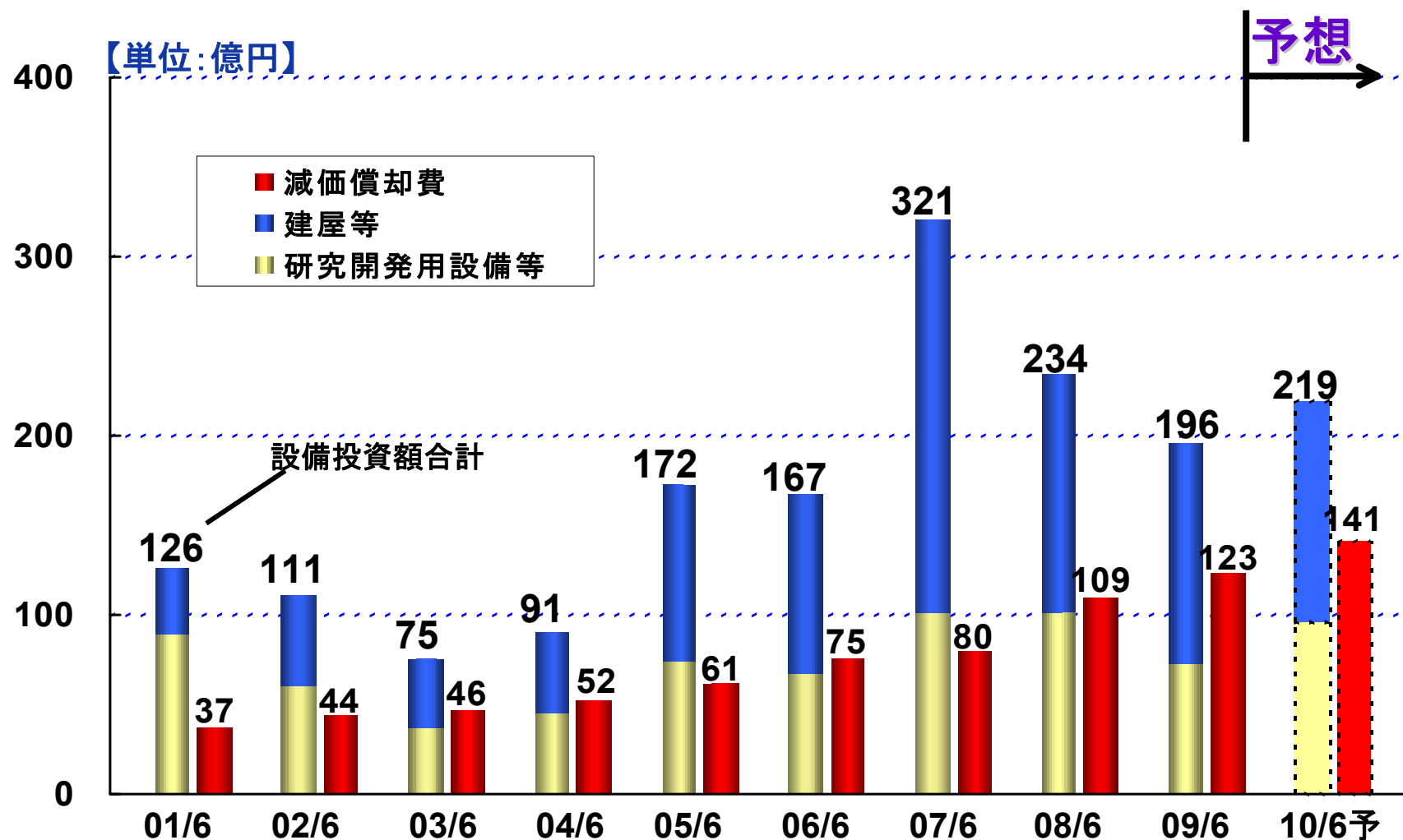


■ **投資CF: ▲186億円**

- ・ 成長戦略投資を実施
- ・ 研究開発投資

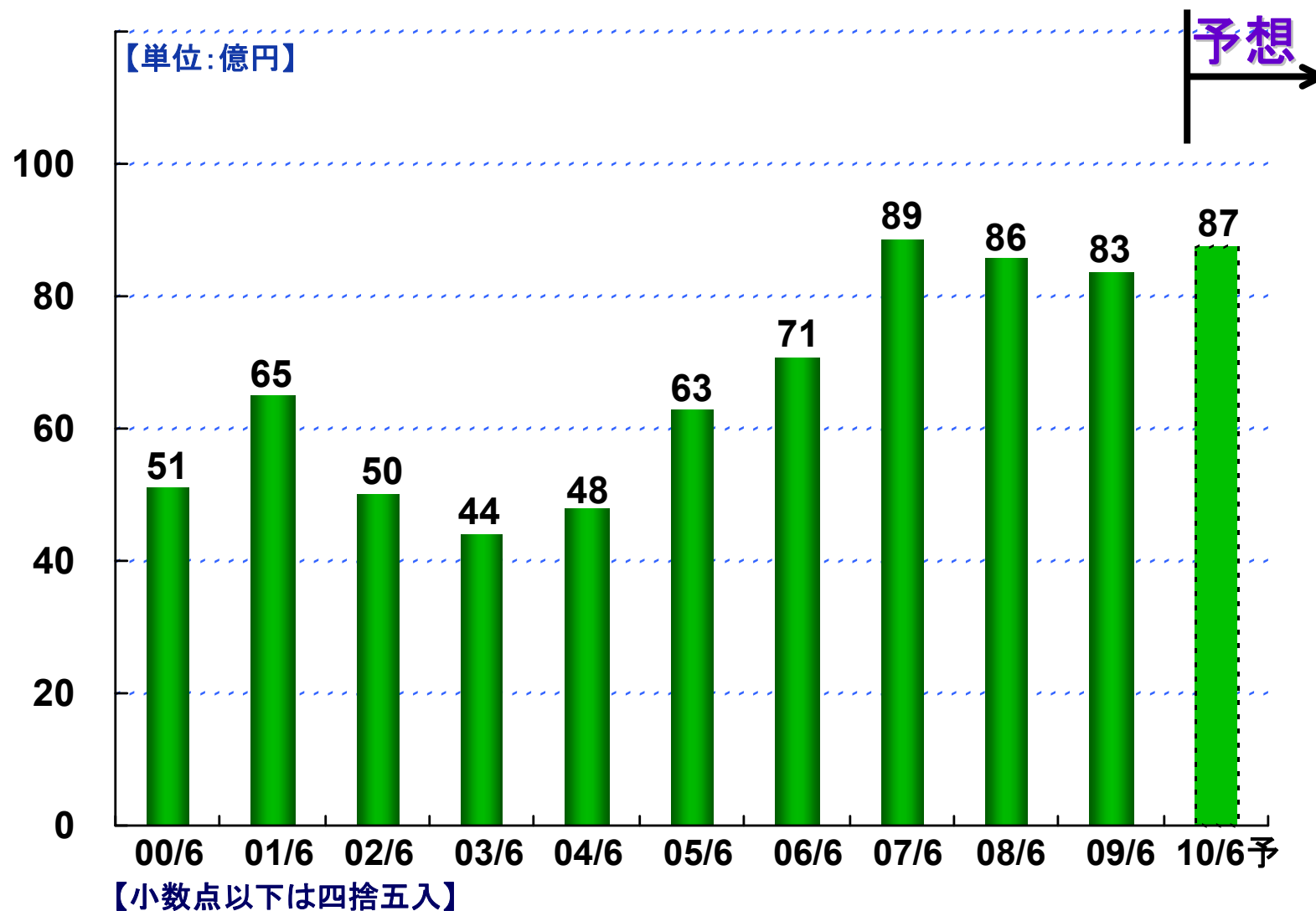


# 設備投資、減価償却費の推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

# 研究開発費の推移・予想



## 2010/6期 業績予想(まとめ)

### ■ 受注高

半導体の投資の回復は遅れるが、太陽電池関連(国内)、液晶ディスプレイがカバーし増加を予想

→2,100億円

### ■ 売上高:

一部売上基準を工事進行基準に変更することと、液晶ディスプレイ関連の受注残が寄与し、増収を予想

→2,400億円

### ■ 収益面

半導体関連の売上鈍化などで利益率は低迷

上期は営業赤字に転落

来期以降に収益性向上の施策を加速

→営業利益率 2.3%

■ エネルギー・環境関連で世界のトップへ

代表取締役会長 中村久三

■ 業績概要及び予想

▶ 2009年6月期連結業績概要

▶ 2010年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

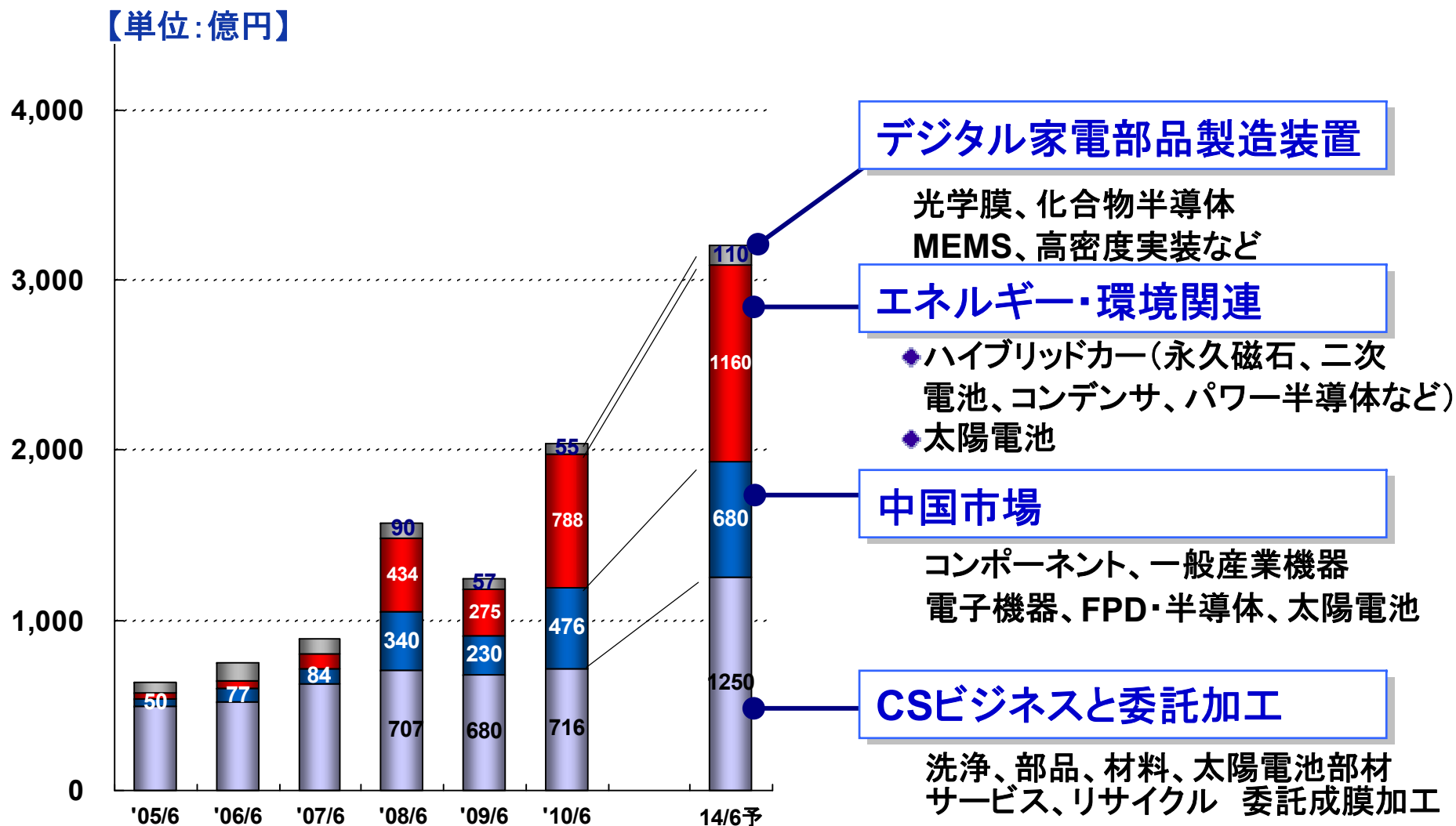
## 重点施策

- 強化する事業
  - ▶ 太陽電池関連事業の強化
    - ◆ タンデム型薄膜Si太陽電池用一貫ラインの拡販
    - ◆ 材料販売の強化
  - ▶ 材料、委託加工ビジネスの強化
- 事業の再編(半導体、FPD、PVなど)
- 財務体質の改善
  - ◆ デモ機など資産売却を促進し、減価償却費の低減
  - ◆ 棚卸資産の圧縮、売掛金回収により  
キャッシュ・フローの改善
- 収益性の改善
  - ▶ 追加原価の徹底的削減

## 事業戦略のまとめ(中長期)

- 今後の事業環境  
不況は今後1年以上続き、受注の回復はまだ先  
不況の後、経済状況は大きく変化し、縮小傾向へ
- アルバックの対応  
既存ビジネスからの脱皮、転換を図る。装置依存から「脱装置・脱真空」ビジネスへの積極展開
- 今後の注力施策
  - ①省エネ・省資源関連
  - ②材料ビジネス、委託加工
  - ③ターンキーソリューションの展開
  - ④中国での成長
  - ⑤成長が鈍化している分野(事業部、会社)  
の事業転換

# ポストFPD戦略(受注目標)



【上記の各項目の目標受注額は一部重複して合算されています。また、目標受注額は事業規模を判断するための参考値で、当社の連結受注額に合算されない額も含まれています。】

真空テクノロジーで  
「つくる」をつくる、アルバック  
ULVAC

本日は  
ありがとうございました



# 会社概要

## ■ 事業内容

### ▶ 真空関連事業

- ディスプレイ及び電子部品製造装置：FPD（液晶、有機EL、PDP等）、太陽電池、電子部品
- 半導体製造装置：メモリー、LED等の半導体製造装置
- コンポーネント：真空ポンプ、計測器、電源などの真空機器
- その他：真空熱処理炉など一般産業機器

### ▶ その他の事業

先端材料、表面解析装置、装置制御

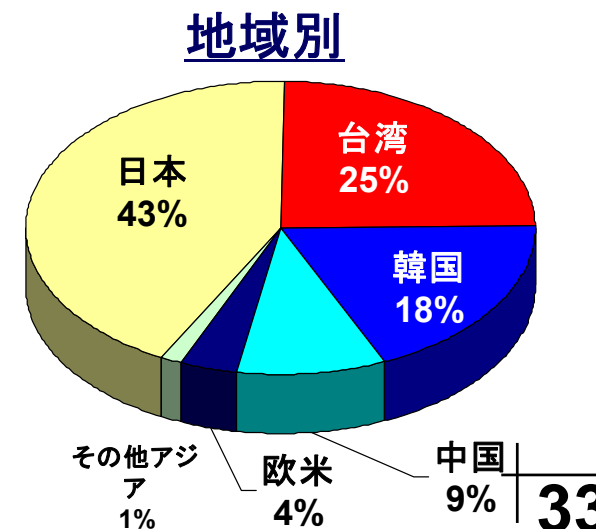
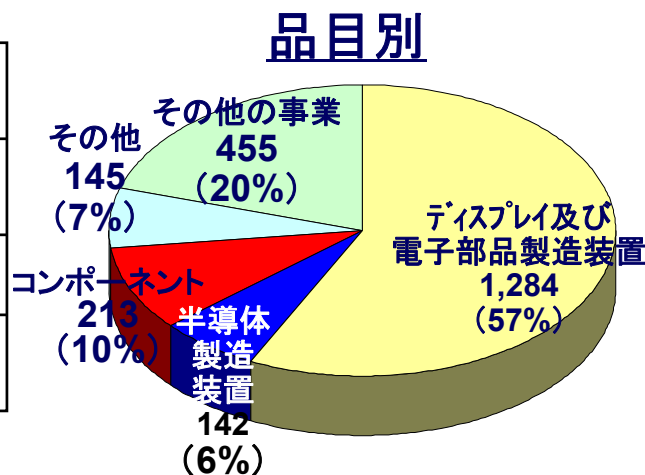
：スパッタターゲット材、ナノテク関連分析装置、制御システム、委託加工など

## ■ 09/6期実績（連結）

【単位：億円】

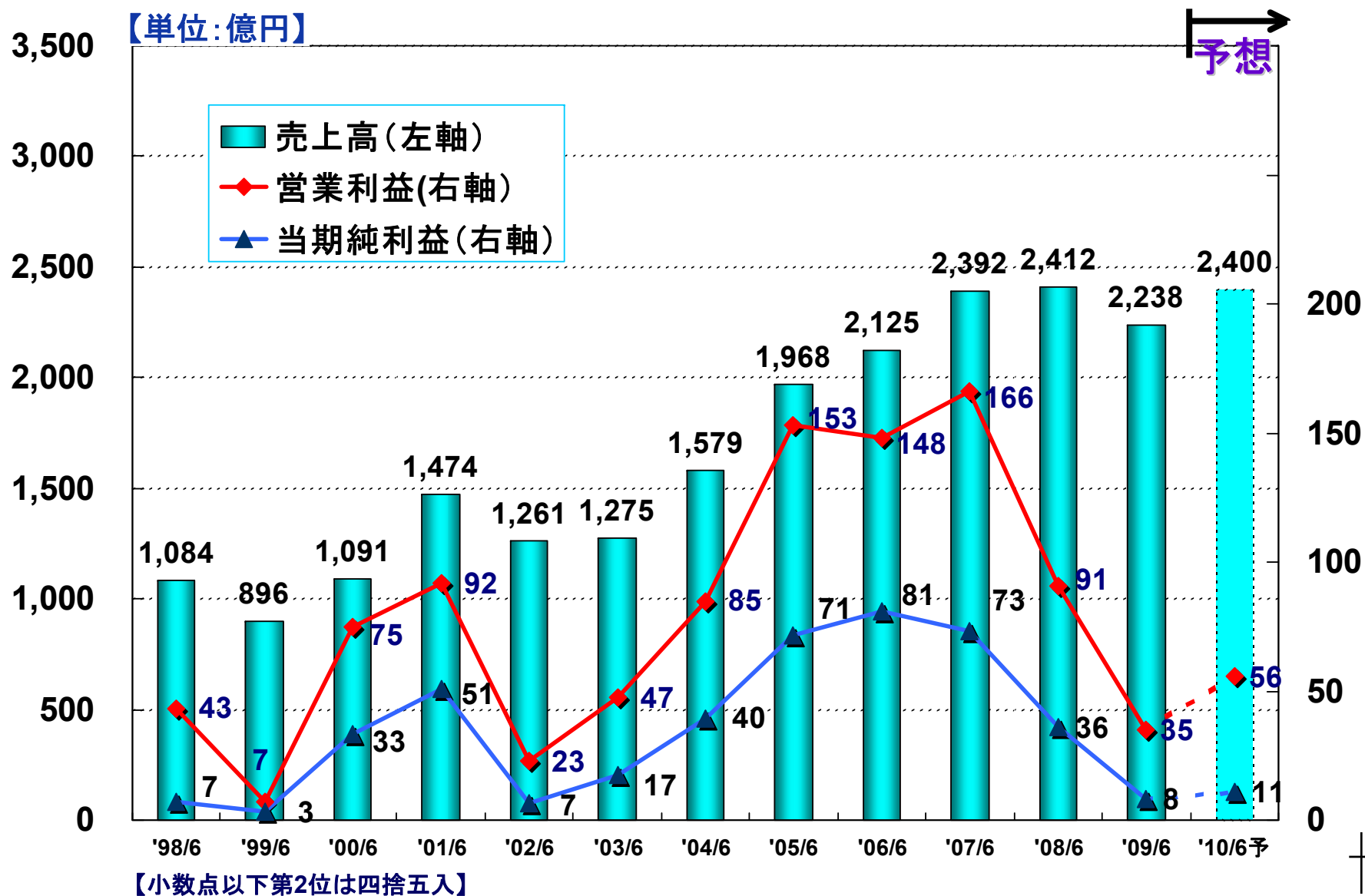
売上高	2,238
営業利益	35
当期純利益	8
純資産合計	902

## ■ 売上高構成比（連結）

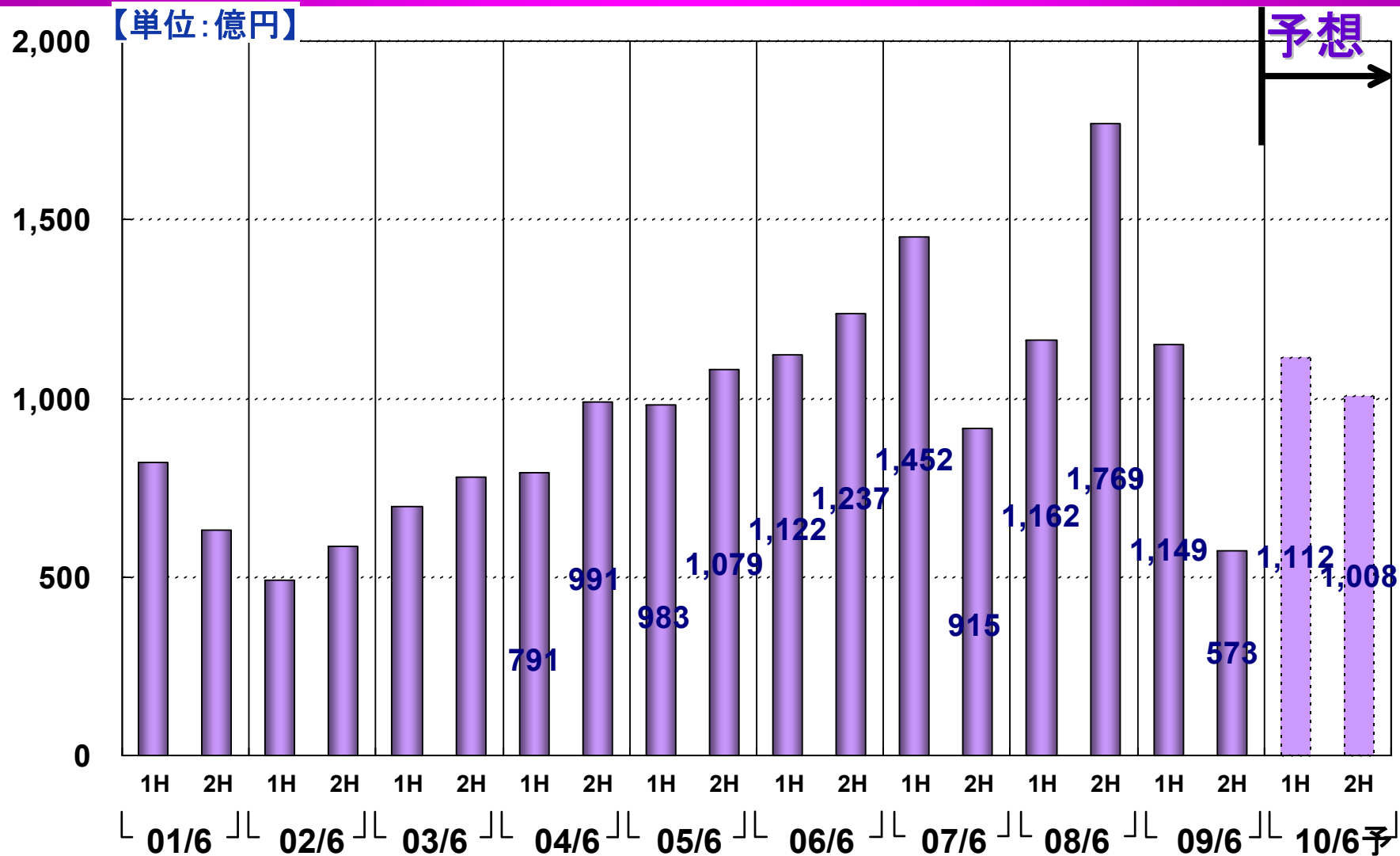


# 売上高と利益の推移・予想

添付資料



# 受注高推移・予想



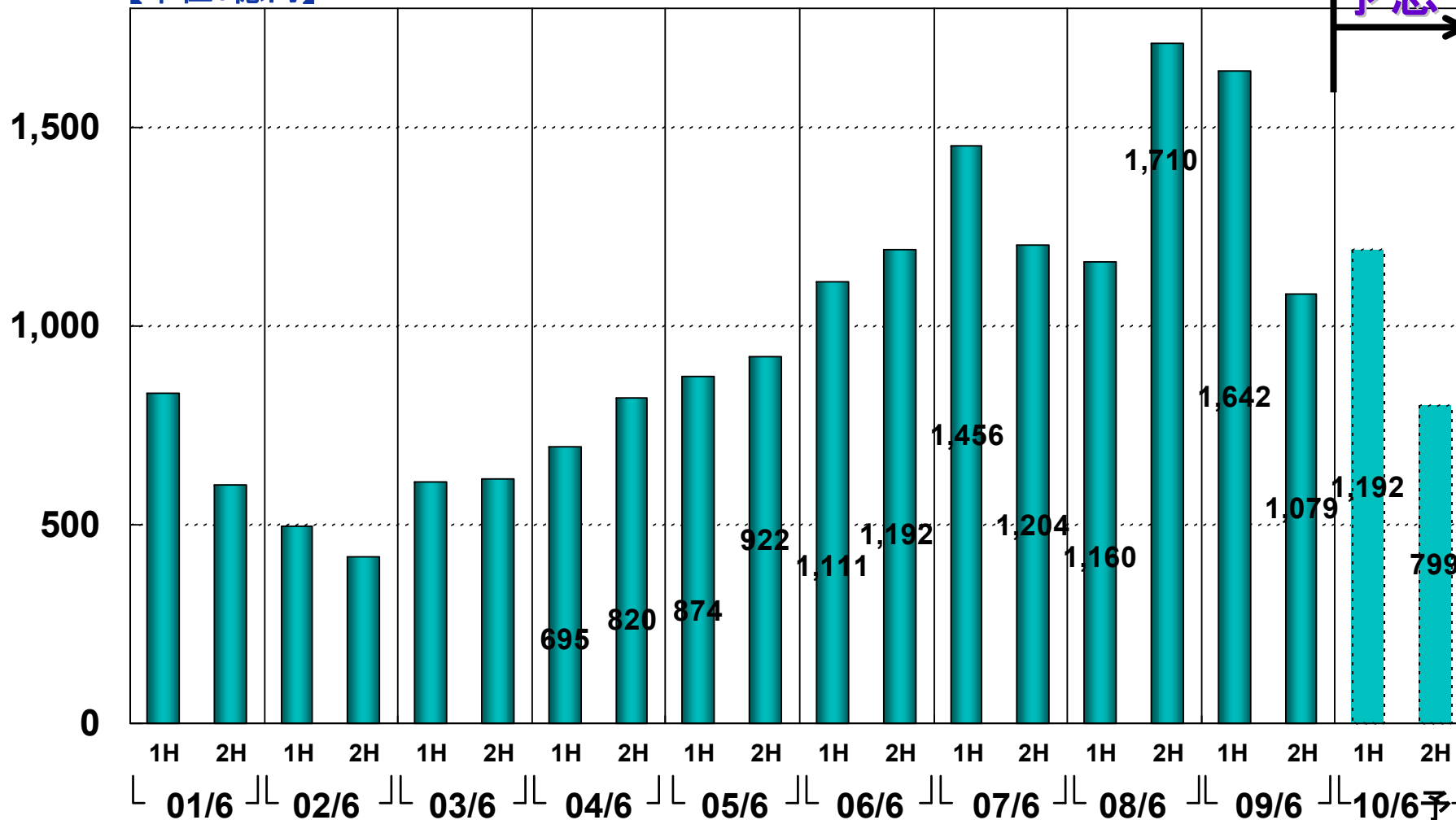
【小数点以下は四捨五入】

# 受注残高推移・予想

添付資料

【単位：億円】

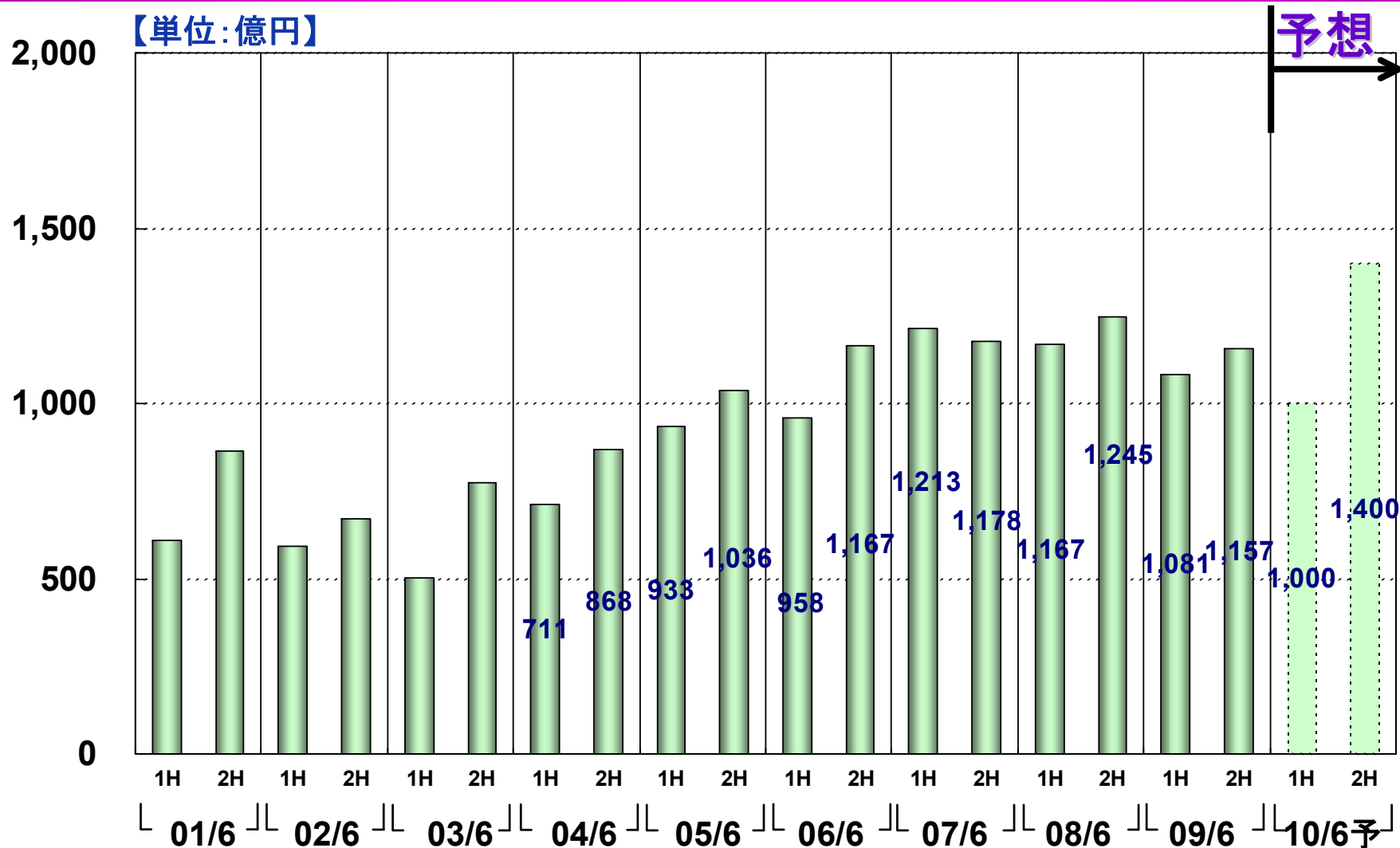
予想



【小数点以下は四捨五入】

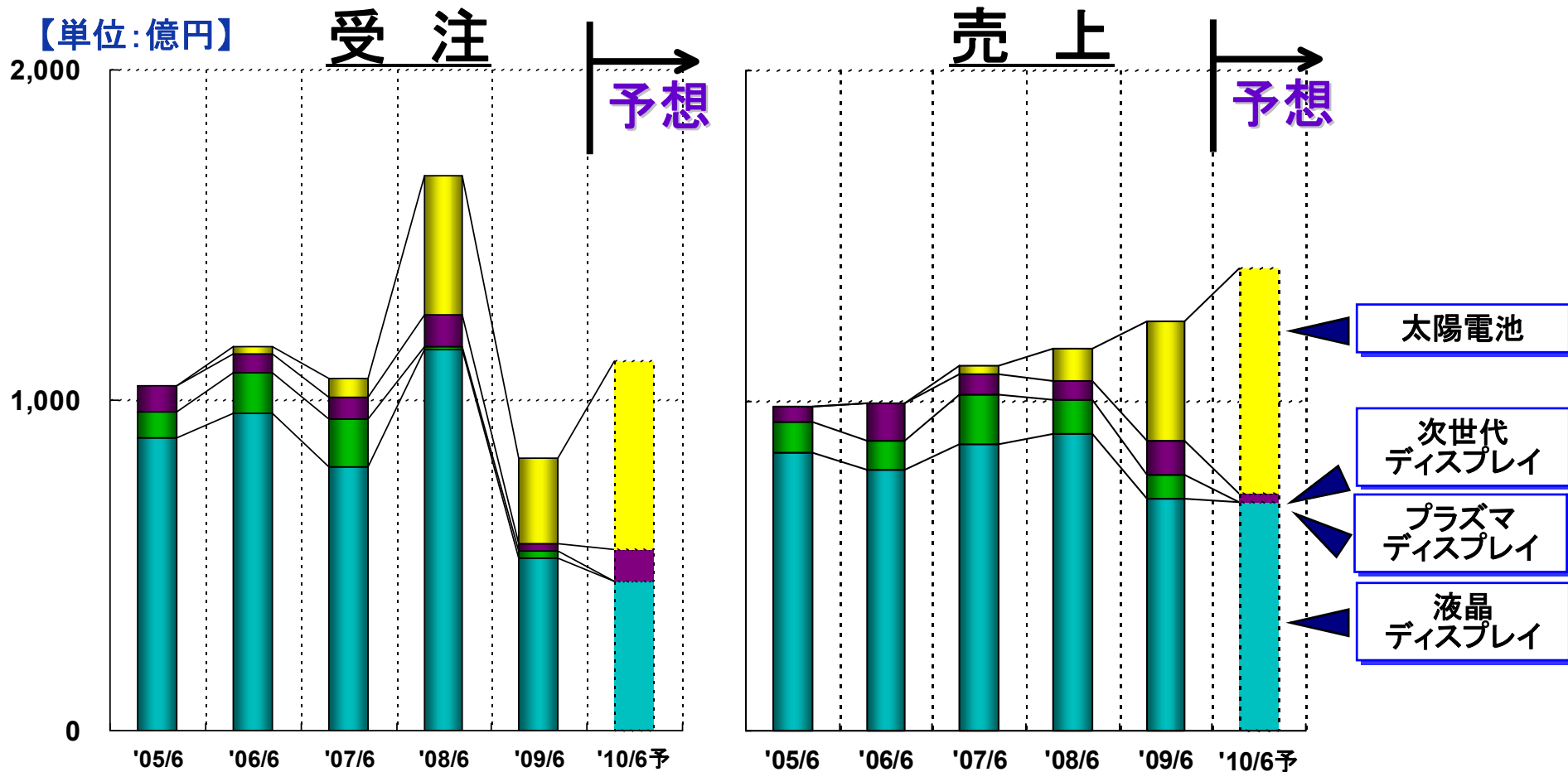
# 売上高推移・予想

添付資料



【小数点以下は四捨五入】

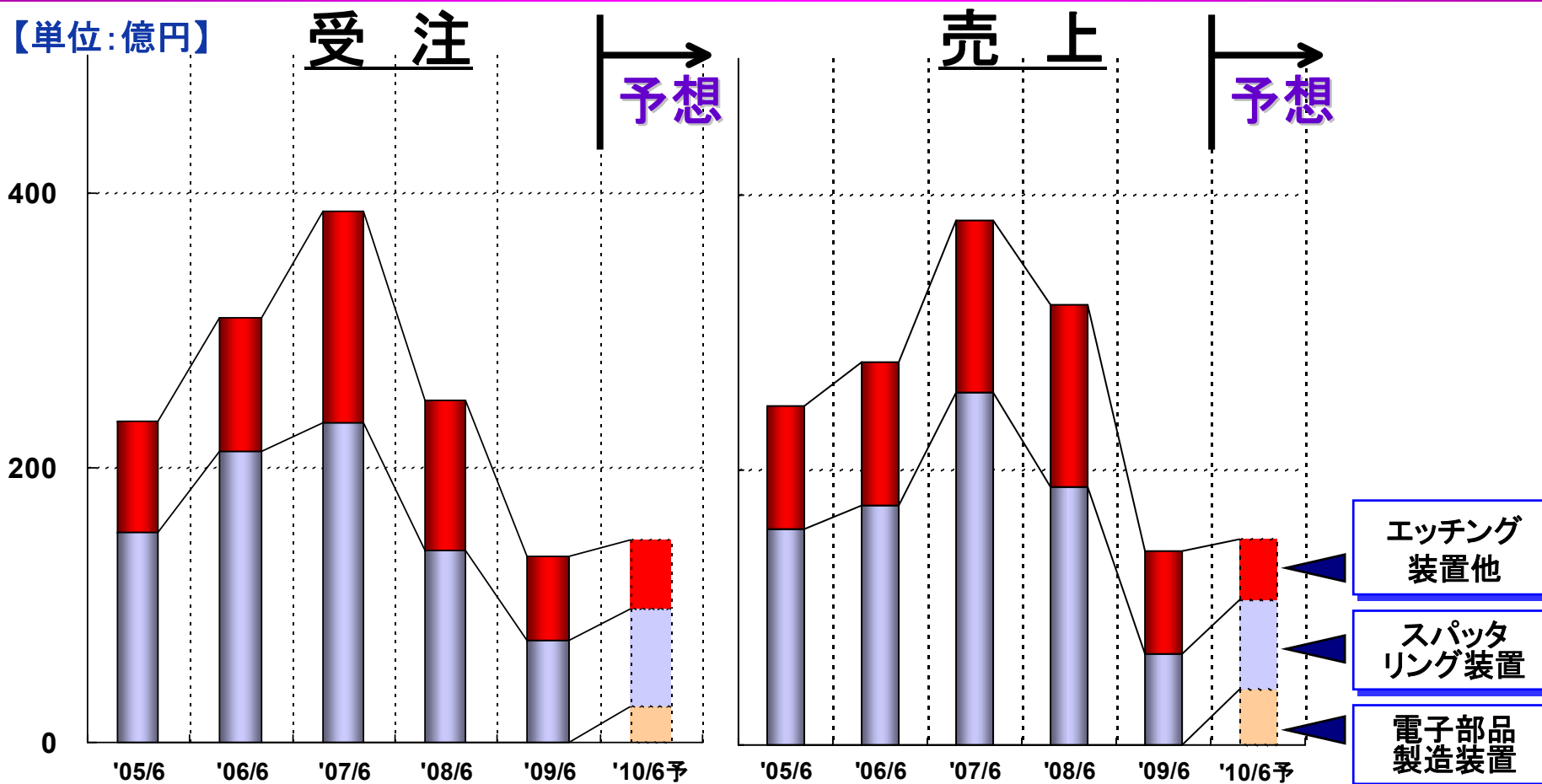
## FPD製造装置・PV製造装置の推移・予想



### 足元の受注環境

- ◆液晶ディスプレイは、韓国、中国を中心に設備投資再開。台湾一部も回復。
- ◆太陽電池は日本中心に受注増を見込む。アジアは資金調達難で様子見が続く。
- ◆薄膜系のタンデムの受注を開始。

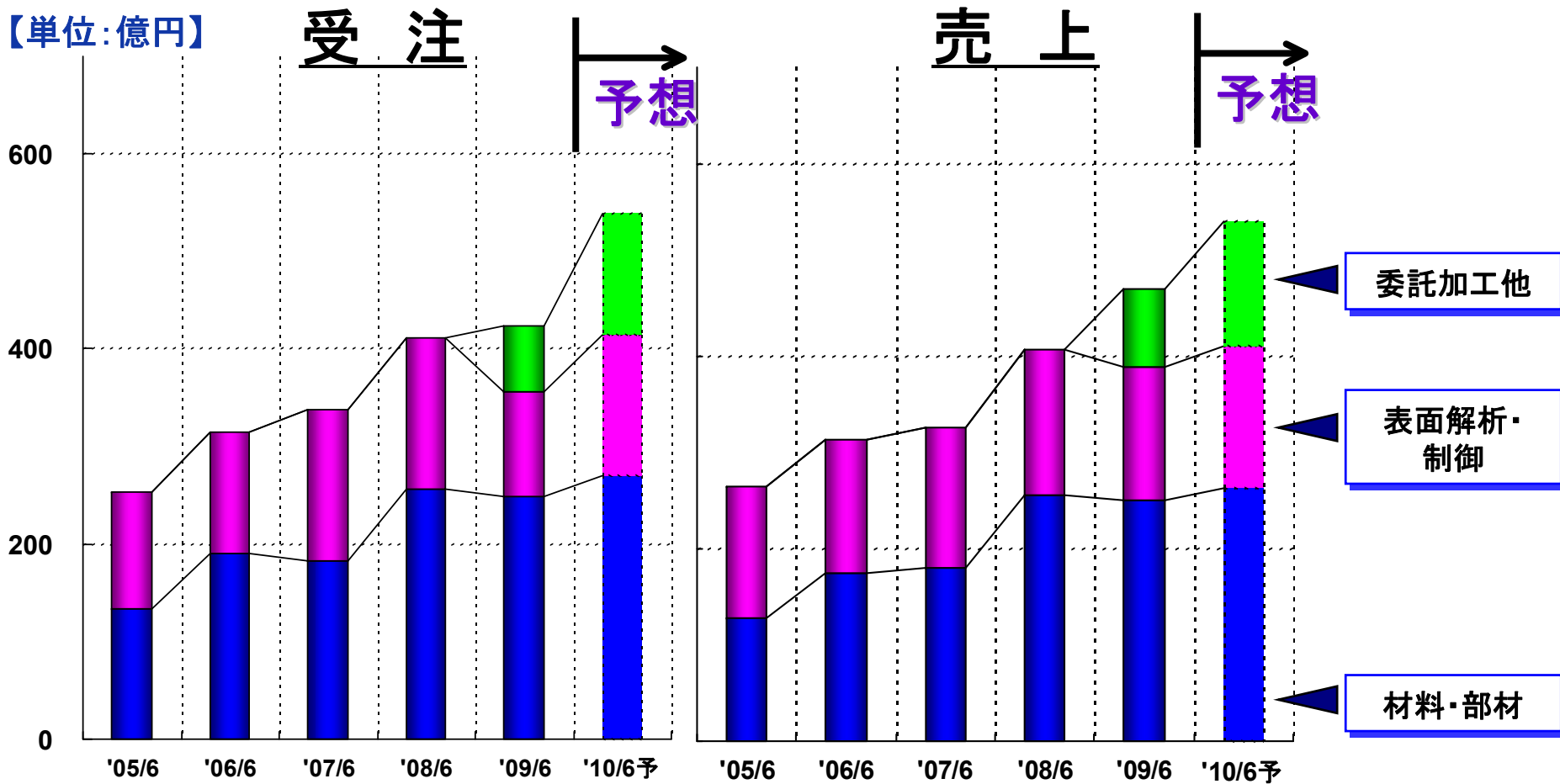
## 半導体及び電子部品製造装置の推移・予想



### 足元の受注環境

- ◆DRAM、フラッシュメモリの投資回復は、暫く見られない。
- ◆LED関連の引き合いが増加。日本、台湾、中国、欧米など市場が急成長。
- ◆ハイブリッドカー・電気自動車関連のパワー半導体など引き合い・受注堅調。

## その他の事業(真空応用事業)の推移・予想



### 足元の受注環境

- ◆中国政府の景気刺激策などで、稼働率回復し、ターゲット材料ビジネスが回復。
- ◆中国向け中古機ビジネスの受注増を見込む。



# 主な新設工場、新拠点の設立(09/6)

韓国

■韓国アルバックマテリアル設立



◆2008年12月稼動開始  
(坡州市)

中国

■愛発科電子材料(蘇州)

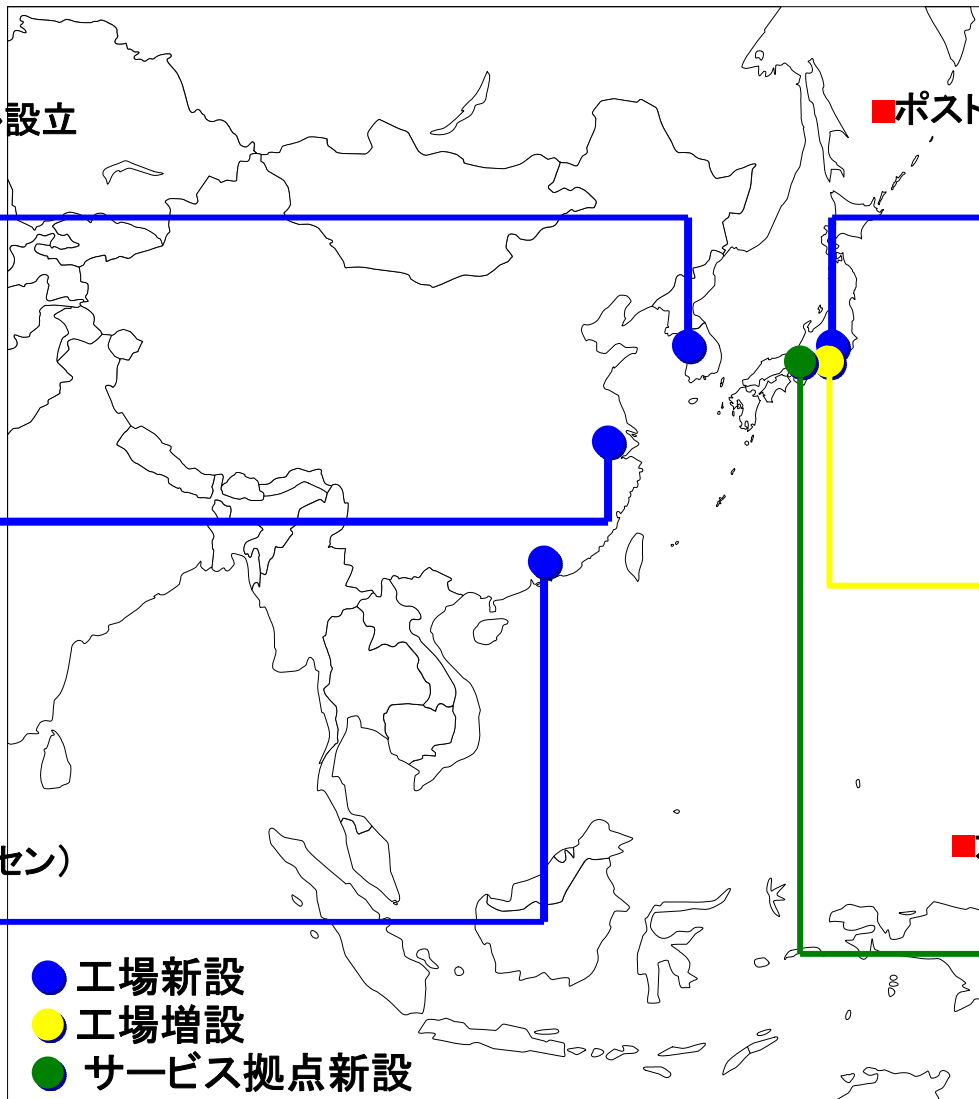


◆2009年4月設立  
(蘇州)

■愛発科光電薄膜科技(深セン)



◆2009年4月設立  
(深セン)



日本

■ポストFPD製造装置試作開発拠点



◆第2期:2008年10月 竣工  
(茅ヶ崎市)

■日本リライアンス新棟



◆2008年8月竣工  
(横浜市)  
・制御系関連工場

■カスタマーサポート拠点新設



◆2008年12月 稼動開始  
(和歌山県橋本市)

# 今後の主な新設工場、新拠点の設立(2010/6)

中国

日本

■愛発科電子材料(蘇州)

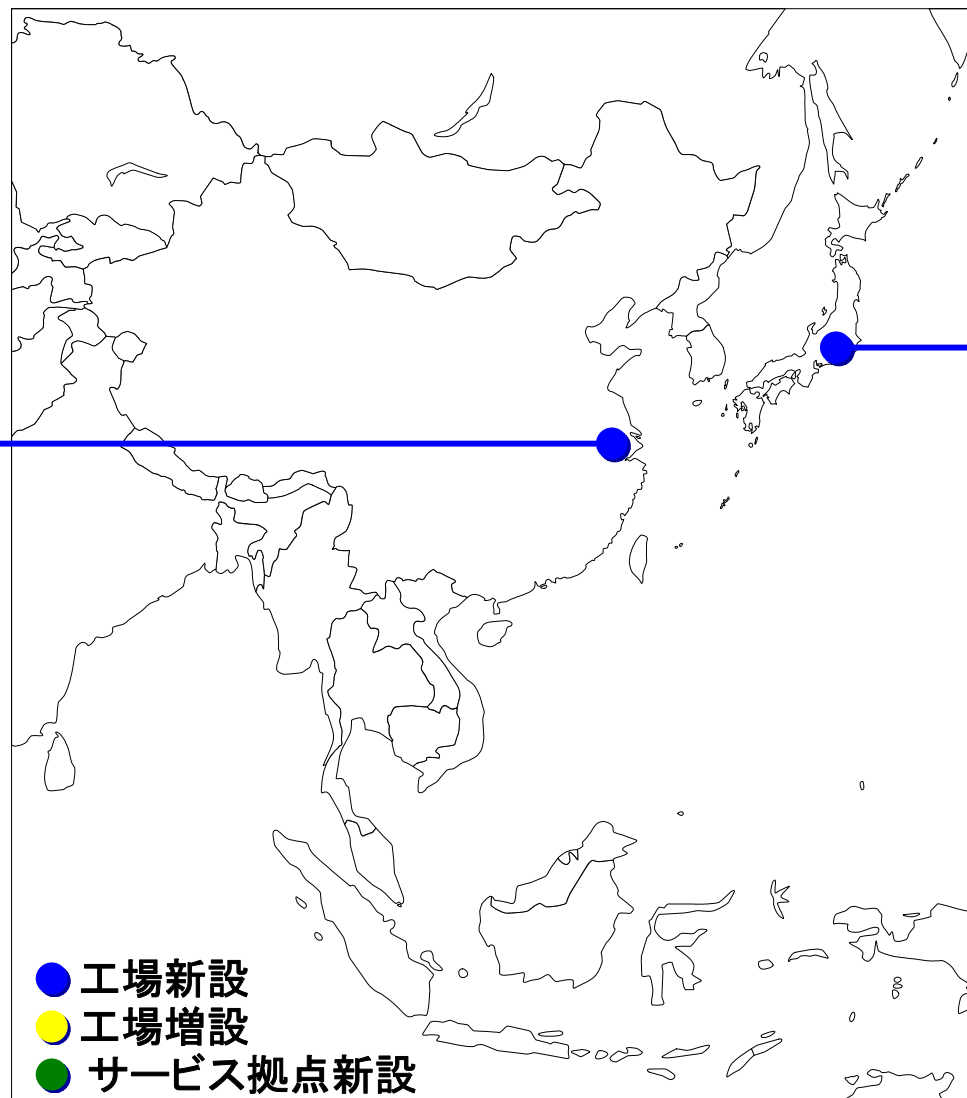


◆2010年7月竣工予定  
(蘇州)

■千葉超材料研究所

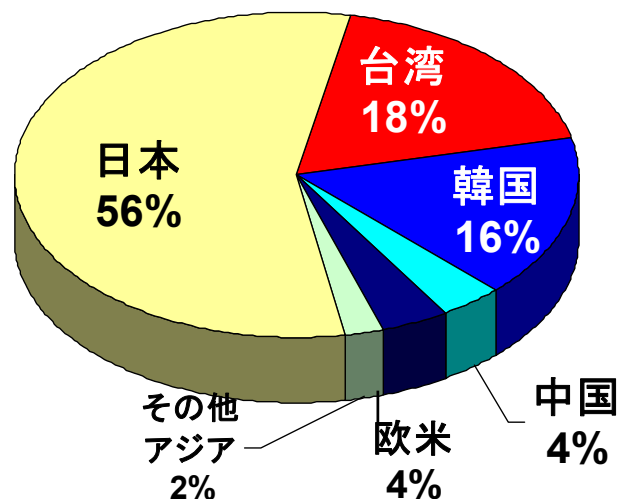


◆2010年3月竣工予定  
(千葉県富里市)

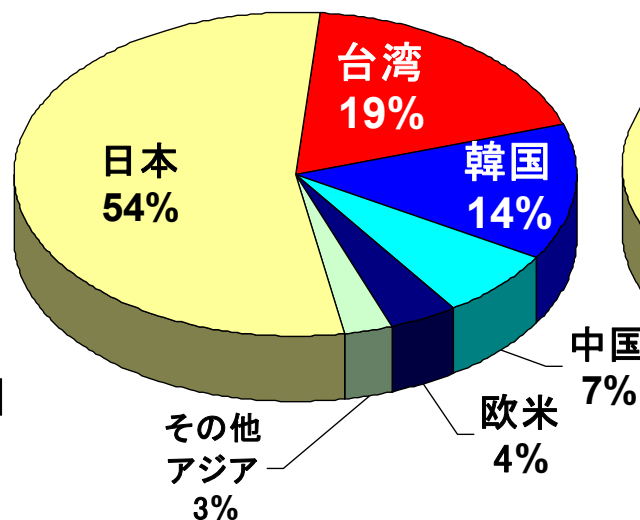


# 地域別売上高構成比の推移

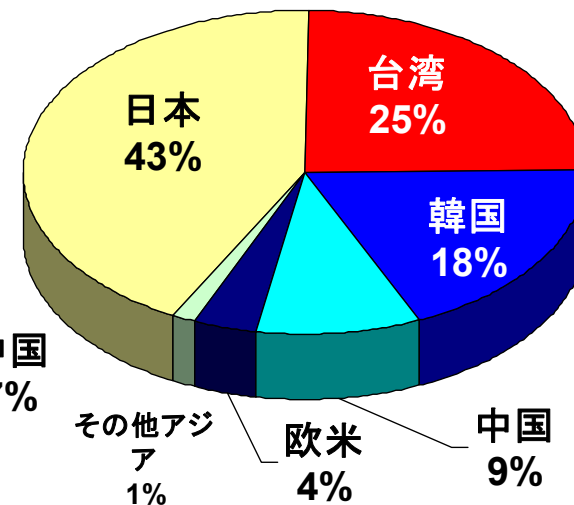
07/6期



08/6期



09/6期



【単位:億円】

	07/6	08/6	09/6
日本	1,334 (+12%)	1,307 (-2%)	949 (-27%)
台湾	442 (-7%)	451 (+2%)	551 (+22%)
韓国	379 (+30%)	326 (-14%)	413 (+27%)
中国	90 (-7%)	169(+88%)	212 (+25%)
その他アジア	51 (+95%)	70(+37%)	33 (-53%)
欧米他	95 (+97%)	89 (-6%)	80 (-10%)
合計	2,392 (+13%)	2,412 (+1%)	2,238 (-7%)

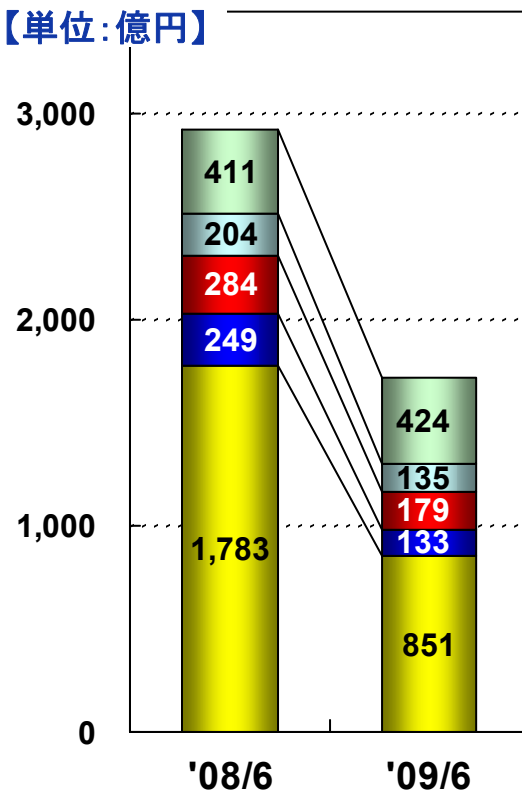
【( )内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

# 主な研究開発のテーマと成果

	主な研究開発のテーマ	主な成果
ディスプレイ 及び電子部品 製造装置	液晶ディスプレイ (TV用大型基板、LTPS) 次世代ディスプレイ デジタル家電関連(高密度実装など) 太陽電池(薄膜、結晶系など)	①薄膜リチウム二次電池一貫量産技術を開発 ②マイクロクリスタル用PE-CVD装置「CIM-1400」 を加えたタンデム型薄膜シリコン太陽電池製造用 ターンキーシステムを開発、販売開始
半導体製造装置	不揮発メモリ、メモリ他 パワー半導体(極薄ウエーハ) MEMS(微細電子部品)、LED	①高生産性を実現したレジスト/残渣除去対応装置を開発 ②LED向け量産専用ドライエッチング装置を販売開始 ③Hp32nm世代以降のLow-k材料の実用化開発に成功
コンポーネント	エネルギー・環境、バイオ	①吸着搬送の省エネ化として大排気量揺動ピストン型 ドライ真空ポンプの販売を開始 ②超高・極高真空雰囲気での測定を可能にした残留ガス 分析計/プロセスガスモニタを発売開始 ③タンデム型薄膜太陽電池用複合式薄膜特性評価装置 「MPEC-1300」を発売開始
その他	エネルギー・環境、 ナノテクノロジー	①エレクトロニクス材料分野で薄膜式真空蒸留が使用可能 な新型遠心式真空蒸留装置を販売開始
その他の事業	新規機能性材料 (ナノテクノロジー)、分析技術	①三菱マテリアルと新TFT配線技術を共同開発。新銅合金 ターゲットを新スパッタ技術に採用 ②X線光電子分光装置による有機分子デバイスおよびセラ ミック材料の深さ方向化学状態分析技術の開発に成功 ③5種類の物性値を瞬時に同時測定可能にする「高速多 重物性測定装置」RMP-1を開発、商品化

# 品目別受注高実績

【単位:億円】



注)

記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

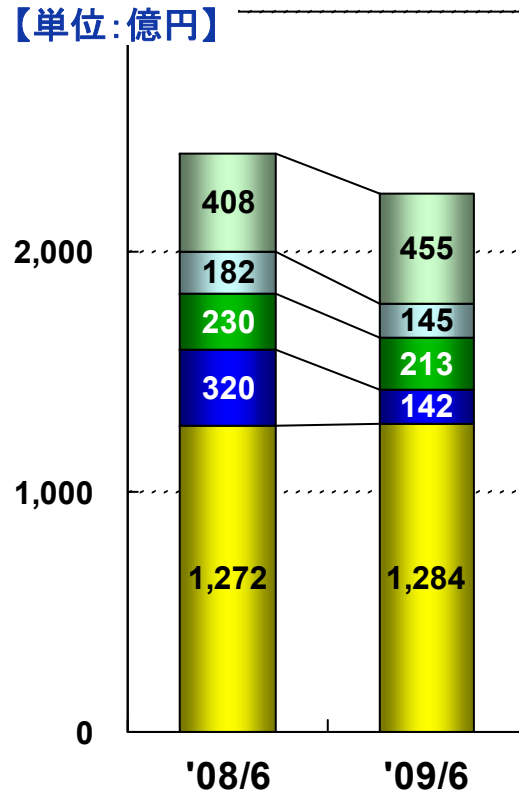
品目	背景
その他の事業	FPDの大型化でターゲット材は増。委託成膜加工ビジネスを新規連結。
その他	自動車関連の投資計画延期で減少。
コンポーネント	半導体、FPD関連の設備投資の減速でポンプ、計測器関連が減少。太陽電池関連も減少。
半導体製造装置	DRAM、フラッシュメモリ需要低迷により、投資計画延期・凍結により大幅減。
ディスプレイ及び電子部品製造装置	大型TV用液晶ディスプレイ(G8以上)の設備投資延期で急減速。金融危機の影響で台湾、中国などの太陽電池一貫ラインも急減。

【単位:億円】

品目	08/6		09/6		
	受注高	構成比	受注高	構成比	増減率
真空関連事業 ディスプレイ及び電子部品製造装置	1,783	61%	851	49%	-52%
半導体製造装置	249	8%	133	8%	-47%
コンポーネント	284	10%	179	10%	-37%
その他	204	7%	135	8%	-34%
その他の事業	411	14%	424	25%	3%
<b>合計</b>	<b>2,931</b>	<b>—</b>	<b>1,722</b>	<b>—</b>	<b>-41%</b>

# 品目別売上高実績

【単位：億円】



注)

記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

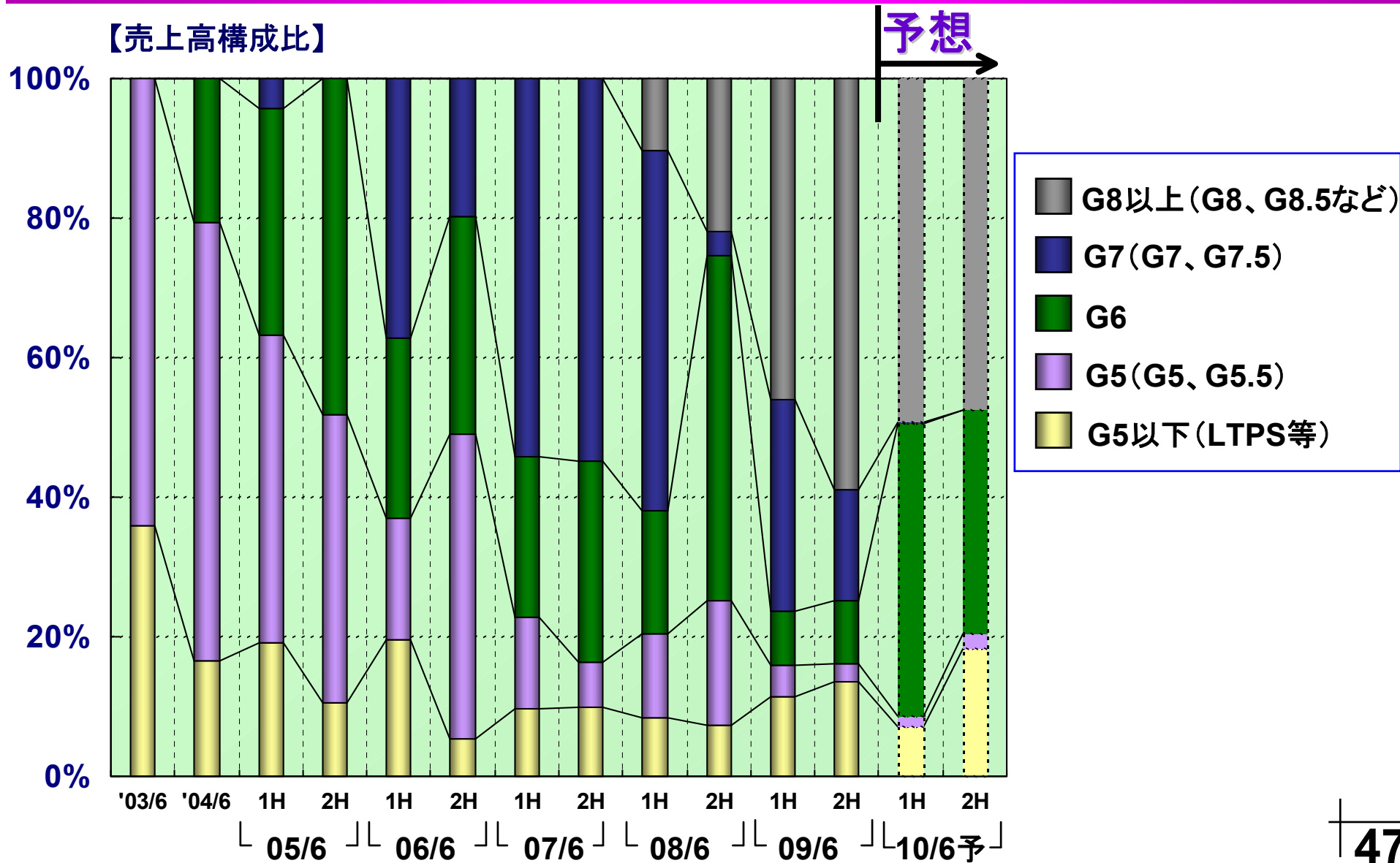
品目	背景
その他の事業	FPDの大型化でターゲット材は増。委託成膜加工ビジネスを新規連結。
その他	自動車関連の熱処理炉や真空蒸着装置が減少。
コンポーネント	FPD、半導体関連の設備投資の減速でポンプ、計測器関連が減少。自動車関連や太陽電池関連も減少。
半導体製造装置	DRAM、フラッシュメモリの需要低迷により、投資計画延期・凍結により大幅減。
ディスプレイ及び電子部品製造装置	台湾を中心に大型TV用液晶ディスプレイの設備投資納入延期で減少。台湾、中国などアジアを中心に薄膜太陽電池製造装置は売上増。

【単位：億円】

品目	08/6		09/6		増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
真空関連事業					
ディスプレイ及び電子部品製造装置	1,272	53%	1,284	57%	1%
半導体製造装置	320	13%	142	6%	-56%
コンポーネント	230	10%	213	10%	-7%
その他	182	7%	145	7%	-20%
その他の事業	408	17%	455	20%	12%
合計	2,412	—	2,238	—	-7%

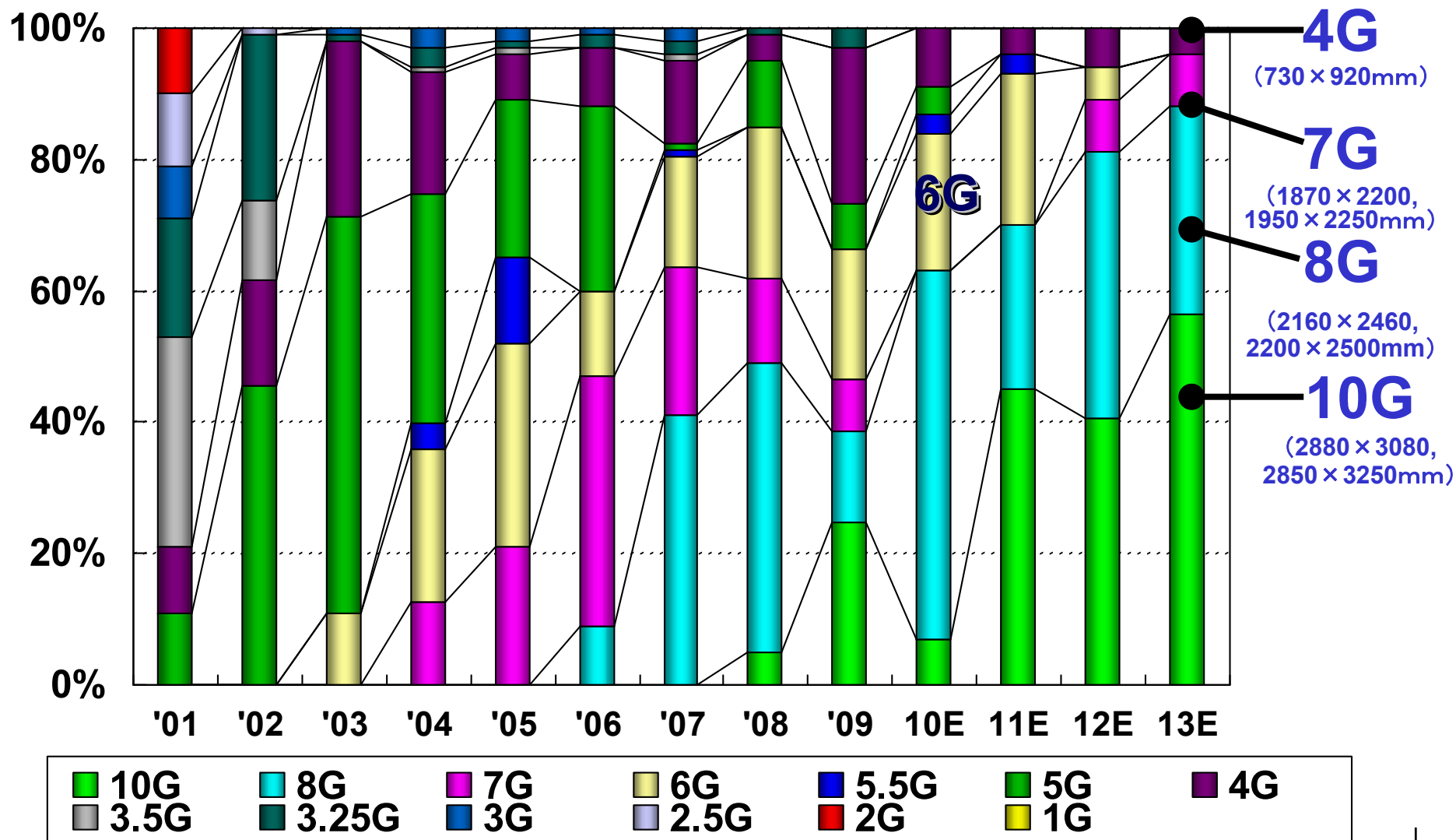


# 液晶ディスプレイ製造装置の世代の推移



# 液晶ディスプレイ世代別投資

参考資料



【出所:2009年7月The 17<sup>th</sup> DisplaySearch Japan Forum】

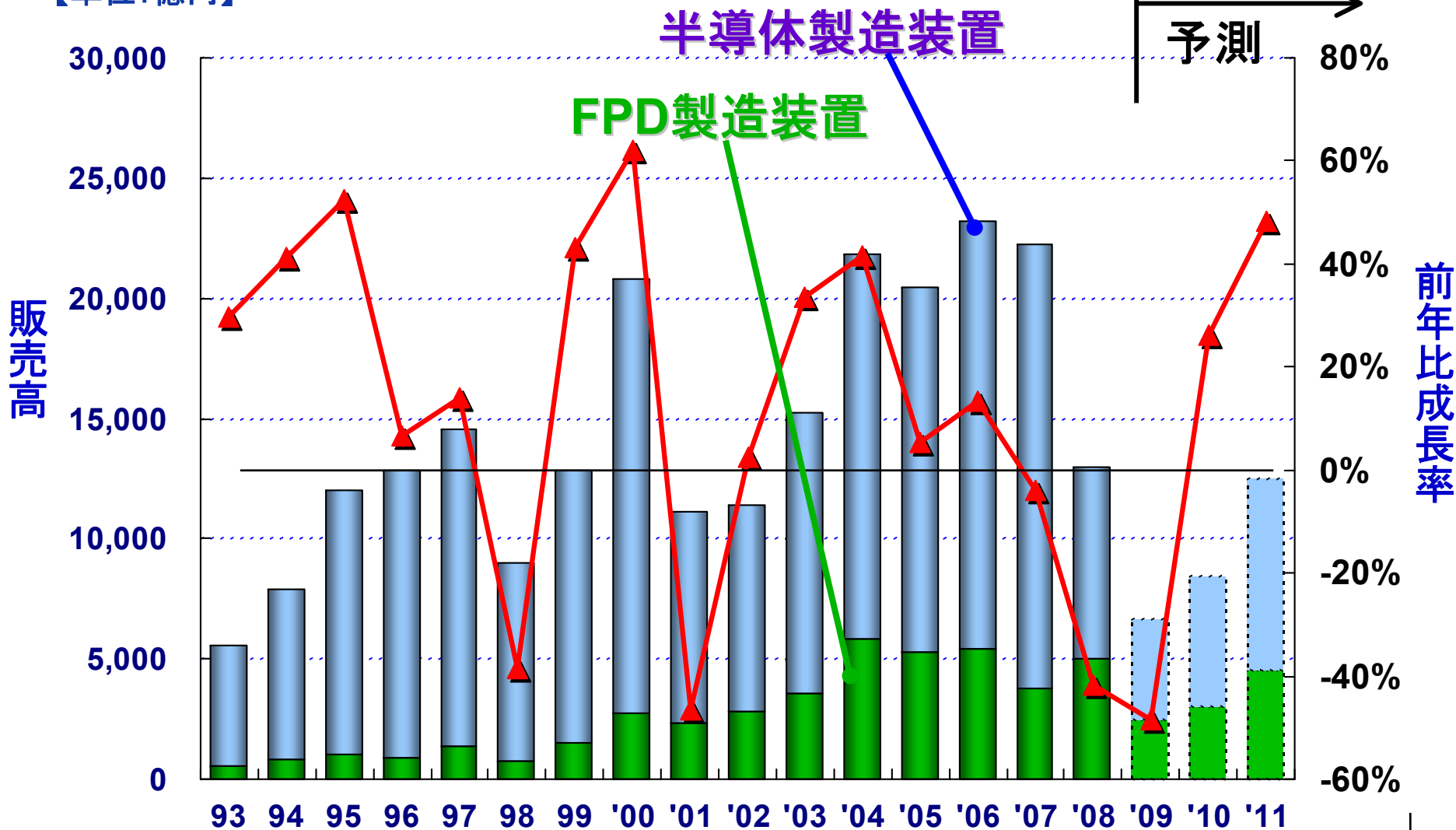


# 半導体およびFPD製造装置予測

参考資料

【単位:億円】

＜日本製装置販売高予測＞



【出所:2009年7月 SEAJ】 (販売高:日系企業(海外拠点含む)の国内および海外への販売高)

真空テクノロジーで  
「つくる」をつくる、アルバック

ULVAC